

令和2年度 事業報告書
令和2年度 計算書類等

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

概 況	1
-----	---

事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	11
III 各種研究会	13
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	19
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会活動	
4 共同研究	
B 研修事業	25
I 平成消化器懇話会の開催	
C クリニック運営事業	26
D 啓発事業	40
E 法人運営	41

計算書類等

A 貸借対照表	45
B 正味財産増減計算書	46
C 財務諸表に対する注記	48
D 財産目録	50

概 況

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあるが、12月までは緩やかに持ち直しの動きがみられた。しかし、その後感染の再拡大を受けてから景気は落ち込み、経済の回復は道半ばである。今後は、ワクチンの接種が迅速に進んで、感染拡大防止と社会経済活動の両立を実現することが期待される。

令和2年度は、検診業界も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となった。4月に発出された緊急事態宣言期間中の検診休止等により、4月、5月の受診者は対前年同期比9割減少した。緊急事態宣言解除後は感染症対策を徹底した上で検診・検査を行い、7月以降は毎月前年を上回る検診件数を実施し、年度を通して前年度をわずかに下回る件数となったが、受診抑制の傾向により、依然として厳しい経営環境が続いている。

当協会が令和2年度に実施した事業は、以下のとおりである。

研究事業については、共同研究・個別研究ともに一定の成果を上げることができたので、引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業のひとつである地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会については、感染症対策のためWeb形式で1回開催した。

クリニック運営事業については、検診のうち施設内検診（当協会施設で実施する検診）及び巡回検診は、休止等により前年度より減少し、全体として検診規模は縮小となった。一方、外来診療の患者数は前年度より大きく減少し、まだ回復の途上にある。

啓発事業については、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを2ヶ月に1回の割合で計6回発行した。

令和3年度は、感染拡大防止に取り組みながら、増設した午後検診及び上部内視鏡検査の実施を中心に、基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。

令和 2 年度 事業報告書

A 研究事業

当協会は、検診・診療を通じ、早期胃がんを主として大腸や食道の早期がんを含めた消化器系疾患の学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。令和 2 年度の研究テーマは、令和 1 年度からの継続のものが 7 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

- 1) 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続）
（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について検討するのが研究の目的である。

平成 25 年度は 360 名を内臓脂肪面積測定機 DUALSCAN で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm^2 で、100 cm^2 以上の人は 28% で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm^2 以上では 76% がメタボ判定であった。その後は、特定保健指導対象者の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との関係を検討して、さらに内臓脂肪面積の減少と血圧の減少と関係があることを報告してきた。平成 30 年度は、平成 29 年に導入した腹部 CT による内臓脂肪面積と体重の相関係数を検討した結果 $r=0.65$ と、それ以前に用いていた DUALSCAN での相関係数 $r=0.43$ よりも高い関連性が得られた。令和 1 年度は、腹部 CT 測定を実施した 21 名を対象に検討した。ピアゾンの積率相関係数でみると内臓脂肪と体重は $r=0.71$ 、腹囲は $r=0.86$ 、収縮期血圧は $r=0.51$ と高い相関が認められた。内臓脂肪と高い相関がある体重、腹囲を測定しながら減量の指導を行った結果、平均減量割合が $5.54\pm 3.99\%$ と日本糖尿病学会が提唱する臨床検査値が改善する減量目標 3~5% を達成していた。

令和 2 年は、平成 29 年(2017 年)4 月から令和 2 年 10 月までに、腹部 CT にて内臓脂肪面積測定を行った 43 名の保健指導前後の体重・腹囲・内臓脂肪面積増減値の平均を算出した結果、それぞれに高い相関がみられた。平成 30 年(2018 年)4 月から令和 1 年 3 月までに特定保健指導を受け、体重の 3% 以上減量した 16 名の検討では、腹囲と空腹時血糖値、腹囲と HbA1c 値に相関がみられた。指導効果の評価指標として体重・腹囲値が有用であり、糖質コントロール等の食事

指導に加え、現在の体重の 3%を目標とした減量を指導することが血糖値改善につながることを示唆された。

令和 3 年度も研究を継続し、特定保健指導支援を受けた対象者の保健指導前後のデータを比較し、特定保健指導の効果を検討する。更に、特定保健指導支援を受けた対象者の検診結果を参考に、血圧や脂質代謝との関連も検討したい。

2) 強力な酸分泌抑制薬を用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討 (継続) (研究本部がん対策研究室)

速やかで強力な酸分泌抑制効果があるプロトンポンプ阻害薬であるラベプラゾール：RPZ (パリエット®) を用いたヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を平成 26、27 年度に検討してきた。平成 27 年 3 月よりアッシュドポンプ競合型アッシュドブロッカー：P-CAB (タケキャブ®) が除菌治療に用いられるようになったため、平成 28 年度からはその有用性の有無の検討を開始した。

平成 29 年度は、前向き検討症例を当協会などの 7 施設で除菌治療をして成否が確認された 1,310 例を、共同研究者の山崎が集計して分析した結果、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800 群が 97.2%と非常に高い除菌率を示したことを第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会で報告した。多くの報告では CAM400mg 投与と CAM800mg 投与では除菌率に差はないことから「*H.pylori* 感染の診断と治療ガイドライン 2016 年版」では 400mg/日投与が推奨されている。それと異なる結果であったことから、平成 30 年度は当研究責任者が関与した症例で再検討した結果、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 400 の除菌率は 87.0%、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800 の除菌率は 91.9%であった。令和 1 年度は、登録してきた当協会除菌治療症例の成績を集計した結果、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 400 群(266 例)の除菌率は 88.7%、VPZ 40+AMPC 1500+CAM 800(503 例)の除菌率は 91.5%であった。一方、副作用の発生率に関して前者は 5.4%、後者は 11.4%であった。

令和 2 年度は、同年 9 月までに当協会除菌治療および判定がなされた P-CAB 除菌症例に関して、CAM400 群と 800 群に分けて除菌率と副作用について検討した。除菌率に関しては CAM400 群 89.18%と CAM800 群 92.07%と有意差はなかったが、除菌治療に伴う副作用に関しては、CAM400 群 5.57%に対し、CAM800 群 9.39%と有意に高い発生率を示していた ($p=0.046$)。副作用の発生率が高い CAM800 群では、特に異味症が高かったが、薬疹、下痢も多く見られた。

	発生数	薬疹	下痢	異味症
CAM400 群	17 (5.6%)	4 (1.3%)	8 (2.6%)	1 (0.3%)
CAM800 群	58 (9.4%)	20 (3.2%)	15 (2.4%)	14 (2.3%)

令和 3 年度は、VPZ40mg+AMPC1500mg+CAM400mg 投与を治療の基本とし、改めて除菌治療の成功率と副作用発生率の検討を行う。

3) レーザー内視鏡を用いたヘリコバクター・ピロリ陽性慢性胃炎に対する内視鏡自動診断プログラムの開発（継続）

（研究本部画像病理研究室）

ヘリコバクター・ピロリ感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られており、健康保険によるピロリ胃炎の内服治療が既に認可されている。本研究の目的は、内視鏡検査時におけるピロリ菌感染予測を補助する「内視鏡自動診断プログラム」を作成することである。

研究は白色光、Blue LASER Imaging (BLI)、Linked Color Imaging (LCI) の内視鏡画像データを用いた deep learning の検討である。平成 28 年度から deep learning の framework を用いて感染・未感染の 2 群の内視鏡画像分類プログラムを試作し検討を開始した。平成 29 年度は数回にわたって診断プログラムを改良し、さらにレーザー内視鏡による画像強調法 (BLI, LCI) を用いたことで、感度 87.0%、特異度 95.0%、診断精度は (ROC 曲線による AUC) 0.96 まで向上した。平成 30 年度からは *H. pylori* 除菌判定に役立つ事を考えて *H. pylori* 未感染・現感染・既感染の 3 分類での診断を可能にする deep learning の作成を試みた。令和 1 年度は自動診断プログラムを改良して、384 例の前向き登録症例から 12,836 枚の LCI 画像データを抽出して、22 層に多層化した deep learning に画像の特徴を記憶させた。自動診断プログラムの診断精度は、*H. pylori* 未感染 0.97、現感染 0.82、既感染 0.73 であった。令和 1 年度の結果は UEGW バルセロナで口演発表した(OP-317)。

令和 2 年度は、登録症例を追加し 512 例のサンプルを得た。*H. pylori* 除菌後の判定まで含めた 3 分類 (*H. pylori* 陰性・陽性・除菌後) の AI プログラムを改良し、動画診断に対応した。120 例の臨床画像を用いて AI による *H. pylori* 診断精度 (未感染 84.2%、現感染 82.5%、除菌後 79.2%) と、内視鏡専門医の診断精度 (未感染 91.2%、現感染 79.4%、除菌後 78.1%) を比較し、AI が内視鏡専門医と同等の精度を示すことを証明した。以上の結果を Gastric Cancer に投稿し publish された。

令和 3 年度は、症例の収集を継続し、特に *H. pylori* 除菌後の判定まで含めた 3 分類 (*H. pylori* 陰性・陽性・除菌後) の診断精度を向上させるように、自動診断プログラムを改良する。研究内容を学会や論文で発表する予定である。

4) CT コロノグラフィー検査条件の最適化（継続）

（研究本部画像病理研究室）

大腸がんの罹患率上昇に伴い、今後、大腸がん検診の増加と、それに伴う二次検査の増加が予想される。二次検査として行う画像検査として当協会では大腸内視鏡検査を行ってきたが、その実施数には限界があり、また内視鏡が困難な高齢者の増加が見込まれる。そこで当協会では X 線 CT を用いた CT コロノグラフィー (CTC) を導入した。その診断精度の向上が本研究の目的である。平成 29 年度に事前準備を開始して、平成 30 年度は CTC を 11 例施行した。令和 1 年度は 66 例の検討において、CO₂ ガスを使用し大腸全域に拡張良好は背臥位撮影で 43 件(65%)、腹臥位撮影で 49 件(72%)であった。バリウムを経

口投与して残渣と病変の鑑別を容易にするにタギングが良好であったのは 30 件(45%)であった。

令和 2 年度は、CT コロノグラフィーは開始から 111 件施行、令和 2 年は 11 月までに 44 件施行した。CO₂ ガス注入体位を左側臥位で注入を開始後背臥位とし、CO₂ ガス注入完了後に背臥位から撮影を行い、腸管拡張状態を調査した。腸管全域で拡張している状態を「拡張良」、1 カ所腸管が拡張していない状態を「拡張中」、2 カ所以上腸管が拡張していない状態を「拡張不良」として調査した。背臥位撮影では拡張良は 35 件、中は 9 件、不良 0 件であり、背臥位撮影で CO₂ の注入量は平均 2427ml であった。腹臥位撮影では拡張良は 27 件、中は 14 件、不良 3 件であり、腹臥位撮影で CO₂ の注入量は平均 2764ml であった。背臥位から腹臥位に体位変換後に CO₂ ガスを追加した量の中央値は 900ml であった。体位変換時に CO₂ が肛門から体外に抜けるか、小腸へ逆流するためか、体位変換後の撮影体位の方が腸管拡張不良の割合が多かった。スムーズな体位変換と体位変換後の十分な CO₂ の追加注入が必要との結果であった。

令和 3 年度は、CT コロノグラフィーの施行件数を増やし、前処置による水分や便の残渣の状態、および、体位変換後の CO₂ 追加注入量や体位変換法について検討する。

5) *H.pylori* 除菌後胃癌の内視鏡診断に関する臨床的研究（継続）

（研究本部がん対策研究室）

平成 25 年に *H.pylori* 胃炎に対する除菌治療の保険診療が認可された後、胃がん検診受診者中に *H.pylori* 除菌後患者の割合が年々増加してきている。ところが、除菌後発見胃がんは診断困難な症例が多く、その発見に有用な内視鏡診断が確立されていない。一方、除菌後発見胃がん数が年々増加してきている印象はあるが実態は不明である。以上の現状を背景にして、*H.pylori* 除菌後症例の内視鏡診断において除菌後胃がんをより確実に診断するために、内視鏡診断を中心に様々な視点から研究するのが本研究の目的である。

H.pylori 除菌後発見胃がんの大半は、胃がんとしての特徴的な形態を示さず、さらに除菌後の背景胃粘膜の形態・色調変化が加わって、白色光観察のみでは内視鏡診断が困難であった。平成 30 年度は画像強調内視鏡観察による診断を試みたが明確な知見は得られなかった。そこで、平成 30 年度からは、胃がん症例を現感染胃がん、既感染胃がん、未感染胃がんに分けて、各年度の内視鏡受診者の感染状況と対比することによって、それぞれの発生頻度を推定する研究を開始した。

令和 1 年度は、胃炎除菌保険認可前後の平成 22 年度から 30 年度まで隔年で、検診症例の *H.pylori* 感染状況および現感染、既感染、未感染胃粘膜別の胃がん発見率の推移について後ろ向きに調査した結果、平成 22 年度から 30 年度にかけて、現感染者は 46.2%から 6.8%と減少したのに対して、既感染者は 10.9%から 32.4%へ、未感染者は 42.9%から 60.8%へ増加した。

当施設での年度別発見胃がんを背景胃粘膜の *H.pylori* 感染状況別にみると、

現感染者の胃がん発見率は平成 22 年度 1.11%、24 年度 0.74%、26 年度 1.07%、28 年度 0.65%、30 年度 1.03%と算出された。既往感染者の胃がん発見率はそれぞれ 0.38%、0.49%、0.52%、0.22%、0.36%であった。一方、未感染者の胃がん発見率はそれぞれ 0.05%、0.07%、0.07%、0.10%、0.07%であった。*H.pylori* 既感染胃がん数は増加しているが、発見率は変化なく現感染者では約 1%、既往感染者では約 0.4%、未感染者では約 0.07%であった。(消化器内視鏡 2019; 31: 1818-1822)

令和 1 年度は、平成 22 年(2010 年)度から 10 年間の隔年の検討であったが、令和 2 年度は、さらに精度の高い知見を得る目的で、平成 22 年(2010 年)から令和 1 年(2019 年)の逐年 7 月単月の成績を集計した。内視鏡受診者の *H.pylori* 感染状況の推移では、現感染者はそれぞれ 46.2、36.3、32.5、27.0、24.1、16.3、12.7、11.1、6.8、5.9%と減少したのに対し、既往感染者は 10.9、11.0、15.1、18.0、24.9、31.9、36.7、35.1、32.5、37.6%と、未感染者は 42.9、52.7、52.4、55.0、51.0、51.8、50.7、53.8、60.8、56.3%と増加していた。*H.pylori* 感染状況別の発見胃がん数は、平成 22 年(2010 年)度から令和 1 年(2019 年)度へと、現感染胃がんは 25 例から 9 例と減少に対し、既往感染胃がんは 2 例から 13 例と増加し、未感染胃がんは 1 例から 1 例と変化を見なかった。現感染者が減少し、既往感染者と未感染者が増えた 10 年間の集計では、現感染胃がんは 123 例で発見頻度は 1.03%、既往感染胃がんは 75 例で発見頻度は 0.48%、未感染胃がんは 19 例で 0.06%であり、昨年の検討結果とほぼ同様の結果であった。

令和 3 年度は、検討期間を広げ、平成 16 年(2004 年)、21 年(2009 年)、26 年(2014 年)、令和 1 年(2019 年)度の内視鏡受診者全員の *H.pylori* 感染状況を調査する。男性と女性では胃がん発生頻度が明らかに異なることから、当院内視鏡受診者の約 65%を占める男性例のみに限定して、*H.pylori* 感染状況別の発見胃がん数および発見頻度を調査、更に各年次で診断された胃がんの内視鏡的形狀の変化を調査する。

6) ヘリコバクター・ピロリ菌除菌症例の胃癌発症に関する前向き調査 (継続)
(研究本部がん対策研究室)

H.pylori 除菌による発がん予防は特に重要な問題である。早期胃がん内視鏡治療後の 2 次胃がん発生を抑制することが日本と韓国の、慢性胃炎患者の胃がん発生抑制が中国の、前向きランダム化試験で証明されているが、本邦における除菌治療の胃がん予防効果に関するエビデンスは十分とは言えない。

そこで、①日本ヘリコバクター学会主導で開始された *H.pylori* 除菌成功症例に登録して、除菌による胃がんの発生率の変化を全国レベルの大規模調査で明らかにすることを目的とした共同研究に参加した。また、②当協会で経過観察されている患者の経過観察から、除菌治療の胃がん抑制効果を多方面から検証することが本研究の目的である。

日本ヘリコバクター学会が行う多施設共同研究に関しては、症例エントリーは令和 1 年 10 月末日では 98 例であった。その中の 25 例で経過観察の内視鏡

を施行したが、胃がんが発生した症例はなかった。なお、全国集計登録患者数は 3,500 例余りに留まっている。

胃がん発生に関する全国調査では結論が出るまでに時間がかかることから、令和 1 年度は当協会に登録されていた平成 13 年度以降に除菌治療がなされ、10 年以上の内視鏡的経過観察がなされた 81 症例を対象とした後ろ向き観察検討を行った。8 例(9.9%)に除菌後胃がんが発見されたが全て分化型早期胃がんであった。除菌から胃がん発見前で期間は、2 年未満 4 例、2~4 年未満 0 例、4~6 年未満 3 例、そして 10 年目 1 例と、除菌治療後比較的早期に発見されていた。

令和 2 年度は、当施設で 5 年以上経過観察を行った症例を対象に後ろ向きに胃がん発見率を検討した。現時点で集計できた当施設除菌群 155 症例では 5 例(3.3%)、と未除菌群 116 症例では 8 例(7.0%)と、除菌治療群において胃がん発見率が低かったが、有意差を示すまでには至らず、更に症例の集積が必要と思われた。

7) 上部消化管 X 線検査の画像を用いたヘリコバクター・ピロリ自動診断プログラムの開発 (継続)

(研究本部画像病理研究室)

ヘリコバクター・ピロリ菌感染による慢性胃炎は、胃がんをはじめとする様々な胃疾患の原因になることが知られている。本研究の目的は、ピロリ菌確定診断前の上部消化管二重造影検査における画像から感染予測を補助する「上部消化管 X 線検査画像を用いたピロリ菌感染診断プログラム」を作成することである。

平成 30 年までの胃 X 線検査画像の内ピロリ菌の感染状況が明らかな症例から、300 例(陰性・陽性各 150 例)を登録した。1 症例から実験用の画像を 5 枚(背臥位、RAO、LAO、伏臥位、RPO;当初の 3 枚から増加の方針)選別し、約 1,500 枚の *H. pylori* 関連上部消化管二重造影検査の画像を抽出する。これらの画像をコンピュータ上で色付けし、*H. pylori* 感染、未感染の画像を deep learning へ入力し、画像の特徴を記憶させ、*H. pylori* 感染の画像診断プログラムを作成することを計画した。令和 1 年度は、50 例の X 線像にコンピュータ上で色付けすることで、*H. pylori* 感染情報を標識した。この作業の達成率は予定の 17%程度であった。また、この作業と並行で、標識された X 線像を deep learning コンピュータへ入力し、プログラムの画像認識パラメータを最適値に調整した。

令和 2 年度は、ピロリ菌胃炎除菌治療が保険収載される以前(平成 22 年(2010 年)から平成 25 年(2013 年)まで)の胃 X 線検査でピロリ菌感染状況が明らかな症例から、300 例(陰性・陽性各 150 例)を後ろ向きに登録した。登録症例中 60 例の X 線像にコンピュータ上でピロリ菌感染情報を電氣的に結合した。この作業の進捗状況は、令和 2 年 11 月で全体の 20%程度である。この 20%における AI の診断精度は、感度:0.75、特異度:0.90、陽性反応的中度 0.86 であった。この途中経過を第 28 回日本消化器関連学会(JDDW 2020)

学術集会で発表した。

令和 3 年度は、実験用に登録した 300 症例について、1 症例から X 線二重造影像を 5 体位選別し（背臥位、RAO、LAO、腹臥位、RPO；当初の 1 症例当たり 3 体位から増加させた）、1,500 枚の実験用画像を抽出する。これらの画像にピロリ菌感染情報を電氣的に結合する作業を行う。令和 3 年度における作業進捗達成目標は予定の 60%である。実験用画像を AI へ入力し、ピロリ菌感染を診断する「診断プログラム」を、作業進捗状況と連動させて繰り返し実施する。

II 個別研究事業

個別研究事業は、令和2年度の研究テーマは、令和1年からの継続のものが2テーマであり、新たに研究を開始したものはなく、研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

1) ピロリ除菌治療後のバレット上皮の進展（継続）

（榑 信廣）

平成24～27年度までの検討で、5年以上の経過観察でも、内視鏡的正常胃症例からの胃がんの発生はなく、内視鏡的正常胃の約半数にバレット上皮が認められ、比較的若い年代で進行することが推測された。その検討結果から、胃の酸分泌機能が改善すると考えられている除菌治療後の患者のバレット上皮の推移についても興味を持たれるところである。その視点から、ピロリ除菌治療後のバレット上皮の推移を中心に研究する。

プレリミナリーな研究として、ピロリ除菌後に3年以上経過を観察されていた症例を抽出して、ピロリ除菌治療がバレット上皮の進展に関与するか否かを検討した結果、年齢、胃粘膜萎縮、性別による差はみられず、除菌後経過期間が長い方が進展した症例が多く認められる傾向があった。

そこで、令和1年度は早期胃癌検診協会附属茅場町クリニックで10年以上にわたって内視鏡検査を継続している患者の画像をレトロスペクティブに検討して、ピロリ除菌治療がバレット上皮の進展に関与するか否かを検討した。その結果、ピロリ除菌後の79例での検討では、バレット上皮陽性であったのは50.6%で、経過観察期間中のバレット上皮進行例は17.7%であった。この結果は、ピロリ現感染(103例)のそれぞれ59.2%、24.3%、未感染(204例)の54.8%、28.8%に比べて低いという予測に反した結果であった。そのために更に症例を蓄積しての検討が必要と考えた。

令和2年度は、10年以上内視鏡検査を継続している患者の画像をレトロスペクティブに検討し、ピロリ除菌治療がバレット上皮の進展に関与するか否かを検討した。検討対象は、ピロリ未感染302例、ピロリ現感染199例、治療時期が明確な除菌後146例である。バレット上皮の実際の長さの計測が困難であること、また過去の内視鏡画像を用いる後ろ向き検討のため、挿入時の食道胃接合部の観察画像で、評価時点前後の複数回の検査画像を総合的に比較し、バレット上皮の進展の有無のみを評価した。10年以上経過観察した症例の検討の結果、ピロリ除菌後のバレット上皮進行例は23.3%であった。この結果は、未感染23.8%、現感染22.1%と差はなく、男女別、年齢別での検討でも明確な差は認めなかった。今回の検討の結論として、ピロリ除菌治療はバレット上皮の進展を促進させる因子にならないことが推測されたため、本研究は本年度で終了とした。

2) 大腸ポリープの検出および鑑別について人工知能技術の開発ならびに適用に関する共同研究（継続）

（中島寛隆）

増加傾向にある日本人の大腸がん死亡者を減少させるためには、病変の早期発見と早期治療が必要である。大腸は約 2m の長大な管腔臓器のため詳細に観察すると長い検査時間を要する。長い検査時間は患者のみならず内視鏡医の負担も大きい。大腸内視鏡検査時間を短縮しながらポリープの検出精度を向上させることができれば、内視鏡診療における貢献が大きい。この目的は、技術を確立することである。

平成 29 年度は、院内の研究倫理委員会で倫理的な問題がなく研究を進める承認を得た後に、画像解析プログラムを作成するために必要な情報を集め分析を開始した。平成 30 年度は千葉大学フロンティア医工学センター川平研究室との共同研究で大腸内視鏡画像に焦点をあてた deep learning プログラムのプロトタイプを試作した。この試作は、大腸腫瘍性病変を 41 例使用し後ろ向き研究として、既知のがん深達度を「上皮内及び SM 微小浸潤」と「SM 深部浸潤」に 2 分類し、各症例の白色光画像を deep learning(8 層)に記憶させた。この deep learning の深達度診断精度は正診率 81.2%を示した。この研究に関しては、成果を英文論文として *Oncology* 2018; 21:1-7 誌に報告して終了した。令和 1 年度は、富士フイルム製のレーザー内視鏡と LED 内視鏡 (LASEREO) も用いた腺腫 750、鋸歯状病変 193、がん 21 病変の動画画像データ (白色光、BLI、LCI) を集積して、進化型プログラム用のデータベース構築を開始した。

これまでに、新たに富士フイルム株式会社と大腸 AI 内視鏡に関する共同研究を行い、813 例の大腸内視鏡検査動画を収集した。令和 2 年度は、富士フイルム株式会社が開発した大腸 AI 内視鏡ソフトウェア「EW10-EC02 CAD EYE®」の医薬品医療機器等法 (薬機法) 承認に際して、検証用画像データ供出 (60 症例) と、性能評価試験を分担した。薬機法承認番号：30200BZX00288000

今年 3 年度も富士フイルム株式会社との共同研究を継続し、大腸検査動画を収集する。大腸 AI 内視鏡ソフトウェア「CAD EYE®」について、臨床実地における「大腸ポリープ病変の検出精度」を求める目的で、Prospective single center RCT 研究を計画する。

Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 61 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催回数の減少だけでなく、インターネットを介した Web 開催を強いられた。しかしながら、東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回 3、4 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端の討論が行われた。困難な 1 年間であったが、本研究会を通じて最新の診断技術と理論の応用と普及が図られ、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

令和 2 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 44 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事が運営委員長を補佐し、研究会運営を推進している。

(令和 3 年 3 月 31 日現在)

【運営委員長】 1 名

山 野 泰 穂 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座

【運営幹事】 12 名

上 堂 文 也 大阪国際がんセンター 消化管内科
江 崎 幹 宏 佐賀大学医学部附属病院 光学医療診療部
小 澤 俊 文 総合犬山中央病院 消化器内科
九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座
蔵 原 晃 一 松山赤十字病院 胃腸センター
榊 信 廣 早期胃癌検診協会
長 浜 隆 司 新東京病院 消化器内科
二 村 聡 福岡大学医学部 病理部・病理診断科
平 澤 大 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター

松本	主之	岩手医科大学医学部内科学講座	消化器内科	消化管分野
丸山	保彦	藤枝市立総合病院	消化器内科	
八尾	隆史	順天堂大学大学院医学研究科	人体病理病態学	

【名誉幹事】 3名

飯田	三雄	九州大学	名誉教授
多田	正大	多田消化器クリニック	
八尾	恒良	佐田病院	名誉院長

【顧問】 3名

岩下	明德	福岡大学筑紫病院	病理部・病理診断科
下田	忠和	静岡県立静岡がんセンター	病理診断科
渡辺	英伸	新潟大学	名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆、掲載される。

(令和3年3月31日現在)

【編集委員長】 1名

松本	主之	岩手医科大学医学部内科学講座	消化器内科消化管分野
----	----	----------------	------------

【編集委員】 25名

味岡	洋一	新潟大学大学院医歯学総合研究科	分子・診断病理学
入口	陽介	東京都がん検診センター	消化器内科
江崎	幹宏	佐賀大学医学部附属病院	消化器内科
小澤	俊文	総合犬山中央病院	消化器内科
小田	丈二	東京都がん検診センター	消化器内科
小野	裕之	静岡県立静岡がんセンター	内視鏡科
小山	恒男	佐久医療センター	内視鏡内科
海崎	泰治	福井県立病院	病理診断科
九嶋	亮治	滋賀医科大学	臨床検査医学講座
蔵原	晃一	松山赤十字病院	胃腸センター
小林	広幸	福岡山王病院	消化器内科
斉藤	裕輔	市立旭川病院	消化器病センター
清水	誠治	大阪鉄道病院	消化器内科
菅井	有	岩手医科大学医学部	病理診断学講座

竹	内	学	長岡赤十字病院 消化器内科
田	中	信 治	広島大学 内視鏡診療科
長	南	明 道	仙石病院 内科
長	浜	隆 司	新東京病院 消化器内科
二	村	聡	福岡大学医学部 病理部・病理診断科
伴		慎 一	獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科
平	澤	大	仙台厚生病院 消化器内視鏡センター
松	田	圭 二	帝京大学医学部 外科学講座
八	尾	建 史	福岡大学筑紫病院 内視鏡部
八	尾	隆 史	順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学
山	野	泰 穂	札幌医科大学医学部 消化器内科学講座

(五十音順)

早期胃癌研究会実施明細（令和2年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
令和2年7月1日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			
令和2年9月23日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			
令和2年9月1日 完全WEB開催 第59回「胃と腸」大会 (令和2年5月21日より 延期)	札幌医科大学医学部 消化器内科学講座 山野 泰穂	大阪国際がんセンター 消化管内科 滋賀医科大学 臨床検査医学講座	上堂 文也 九嶋 亮治	「症例から学ぶ、内視鏡・病理診断」(内視鏡) 「症例から学ぶ、内視鏡・病理診断」(病理)
令和2年11月20日 完全WEB開催 視聴者人数/713名	長岡赤十字病院 消化器内科 竹内 学 がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一 独協医科大学埼玉医療センター 病理診断科 伴 慎一	1) 防府消化器病センター防府胃腸病院 2) 九州大学大学院 病態機能内科学 3) 岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野 レクチャー 【症例から学ぶ内視鏡診断・治療のポイント】 済生会福岡総合病院 消化器内科 (2019年早期胃癌研究会年間最優秀症例賞)	藤原 純子 松野 雄一 川崎 啓祐 吉村 大輔	頸部食道癌の一例 全周性狭窄をきたした空腸神経内分泌腫瘍の一例 早期大腸癌を合併した腸間膜静脈硬化症の一例 「胃多発壁内憩室症を呈した collagenous gastritis の一例」
令和3年1月20日 完全WEB開催 視聴者人数/929名	新東京病院 消化器内科 長浜 隆司 札幌医科大学医学部 消化器内科学講座 山野 泰穂 福岡大学筑紫病院 病理部・病理診断科 二村 聡	1) 秋田赤十字病院 消化器病センター 2) 佐久医療センター 内視鏡内科 3) 聖隷浜松病院 消化器内科	加藤文一朗 高橋亜紀子 山田 洋介	大腸病変の一例 腺癌との鑑別が難しかった十二指腸 3rd portion の異所性胃粘膜の一例 特徴的な内視鏡像を呈して Collagenous gastritis の一例
令和3年3月17日 完全WEB開催 視聴者人数/1,565名	大阪国際がんセンター 消化管内科 上堂 文也 がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一 滋賀医科大学医学部附属病院 病理診断科 九嶋 亮治	1) 岡山医療センター 消化器内科 2) 松山赤十字病院 胃腸センター 3) 近畿大学医学部 消化器内科 4) がん研有明病院 下部消化管内科 レクチャー 【症例から学ぶ内視鏡診断・治療のポイント-忘れられない一例-】 藤枝市立総合病院 消化器内科	佐柿 司 清森 亮祐 永井 知行 泉本 裕文 丸山 保彦	表在食道癌の近傍に併存した食道黄色腫の一例 IIa+IIc 様の形態を呈した十二指腸神経内分泌細胞癌(NEC)の一例 潰瘍性大腸炎に発生した隆起性病変 直腸に発生し EMR にて診断確定に至った腸管子宮内膜症の一例 「A型胃炎」

2 大腸研究会

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催回数の減少だけでなく、インターネットを介したWeb開催を強いられた。困難な1年間であったが研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

令和2年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

(令和3年3月31日現在)

【代表世話人】 1名

齋藤 彰 一 がん研究会有明病院 下部消化管内科

【世話人】 9名

味岡 洋 一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学
河内 洋 がん研究会有明病院 病理部
篠原 知明 佐久総合病院佐久医療センター 消化器内科
立石 陽子 東京大学医学部附属病院 病理部
富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター附属病院
小腸・大腸・肛門科
長浜 隆司 新東京病院 消化器内科
濱谷 茂治 東京慈恵会医科大学 病理学講座
久部 高司 福岡大学筑紫病院 消化器内科
和田 祥城 和田胃腸科医院 消化器内科

【監事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院 消化器内科
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

【名誉世話人】 2名

池上 雅博 東京慈恵会医科大学 病理学講座
大倉 康男 PCL JAPAN 病理・細胞診センター 病理
鶴田 修 聖マリア病院 消化器内科

(五十音順)

大腸研究会実施明細（令和2年度）

開催年月日	例 会 座 長	症 例 提 示 施 設	症 例
令和2年4月27日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
令和2年6月22日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
令和2年8月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
令和2年12月14日 完全WEB開催 視聴者人数/43名	がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一	1) がん研有明病院 下部消化器内科 2) 久留米大学 消化器内科 ミニレクチャー 【症例から学ぶ内視鏡診断のポイント】 がん研有明病院 下部消化管内科	大腸癌の診断に苦慮した一例 大腸癌の興味深い一例 「早期大腸癌の内視鏡診断」
令和3年2月22日 完全WEB開催 視聴者人数/39名	がん研有明病院 下部消化管内科 斎藤 彰一	1) 久留米大学 消化器内科 2) がん研有明病院 下部消化器内科 ミニレクチャー 【症例から学ぶ内視鏡診断のポイント】 がん研有明病院 下部消化管内科	大腸癌の興味深い一例 大腸癌の診断に苦慮した一例 「“SSA/P(SSL)”と“異型を伴うSSA/P”の内視鏡診断」

IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

1 論文・著書

<原 著>

- 1) Nakashima H Kawahira H Kawachi H Sakaki N
「Endoscopic three-categorical diagnosis of *Helicobacter pylori* infection using linked color imaging and deep learning: a single-center prospective study (with video)」
日本胃癌学会誌 Gastric Cancer Vol.23No.6 1033-1040 2020
令和2年11月

<総説・その他>

- 1) 榊 信廣
「十二指腸潰瘍時相分類はどこに行った？」
消化器内視鏡 第32巻第7号 1021-1023 東京医学社
令和2年7月
- 2) 榊 信廣
「強力な酸分泌抑制薬の光と影」
消化器内視鏡 第32巻第8号 1086-1087 東京医学社
令和2年8月
- 3) 榊 信廣
「PPI長期投与と萎縮性胃炎」
消化器内視鏡 第32巻第8号 1180-1185 東京医学社
令和2年8月
- 4) 福山知香 中島寛隆 河内 洋 下井銘子 北沢尚子 渡海義隆
門馬久美子 榊 信廣
「神経内分泌癌成分を伴った Barrett 食道腺癌の1例」
胃と腸 第55巻第9号 1131-1136 医学書院
令和2年8月
- 5) 榊 信廣
「「なんじゃこりゃ? part2」とは」
消化器内視鏡 第32巻第10号 1398-1399 東京医学社
令和2年10月

- 6) 中島寛隆
「胃 X 線検査の現状と展望」
日本消化器がん検診学会雑誌 第 59 巻第 1 号 9-19
令和 3 年 1 月
- 7) 榑 信廣
「内視鏡的萎縮境界診断のコツ」
消化器内視鏡 第 33 巻第 2 号 250-251 東京医学社
令和 3 年 2 月
- 8) 榑 信廣
「*H. pylori* 胃炎の診断法」
消化器内視鏡 第 33 巻第 2 号 252-253 東京医学社
令和 3 年 2 月
- 9) 榑 信廣
「十二指腸潰瘍の白苔の診断」
消化器内視鏡 第 33 巻第 2 号 294-295 東京医学社
令和 3 年 2 月

<著 書>

- 1) 榑 信廣
「ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3 版」編著
日本医事新報社
令和 2 年 10 月
- 2) 榑 信廣
「除菌治療が必要な人は？ ヘリコバクター・ピロリ胃炎」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3 版 1-5 日本医事新報社
令和 2 年 10 月
- 3) 榑 信廣
「ピロリ感染の診断と治療の保険承認の歴史」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3 版 47-48 日本医事新報社
令和 2 年 10 月
- 4) 榑 信廣
「除菌治療後に潰瘍が発生した?!」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3 版 70-71 日本医事新報社
令和 2 年 10 月

5) 榑 信廣

「いつからピロリ菌と呼ばれるようになったのか？」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3版 169 日本医事新報社
令和2年10月

6) 榑 信廣

「検診受診患者の胃癌発見率からみた除菌治療の胃癌抑制効果」
ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 3版 217-218 日本医事新報社
令和2年10月

7) 榑 信廣

「消化性潰瘍診療ガイドライン 2020（改訂第3版）」
今日の治療指針 2021 1977-1980 医学書院
令和3年1月

2 学会活動

- 1) 小田 宏 小林千尋 塚田陽子 工藤 泰 中島寛隆
「機械学習による胃 X 線二重造影の *Helicobacter pylori* 感染診断」
第 28 回 JDDW 第 58 回日本消化器がん検診学会大会 一般デジタルポスター 兵庫
令和 2 年 11 月 5 日

- 2) 中島寛隆
「下部消化管領域における内視鏡診療の進歩—AI の最新知見も含めて—」
第 28 回 JDDW 第 100 回日本消化器内視鏡学会総会
富士フイルムメディカル株式会社 サテライトシンポジウム 95 講演
兵庫
令和 2 年 11 月 7 日

- 3) 中島寛隆
「大腸内視鏡診療の進歩—AI の最新知見も含めて—」
第 49 回日本消化器がん検診学会近畿地方会
富士フイルムメディカル株式会社 ランチョンセミナー 講演 和歌山
令和 3 年 3 月 20 日

3 研究会・研修会活動

1) 中島寛隆

「胃内視鏡検診の検査法と診断法—スクリーニングの手技から胃炎・胃がんの診断まで—」

第2回帯広上部消化管内視鏡セミナー 特別講演 北海道
令和2年10月17日

2) 中島寛隆

「胃内視鏡検診の検査法と診断法—スクリーニングの手技から胃炎・胃がんの診断まで—」

川越地区消化器内視鏡セミナー 特別講演 埼玉
令和2年10月21日

3) 中島寛隆

「*H. pylori* 未感染胃底腺粘膜の病変」

第20回臨床消化器病研究会 主題4 上部消化管 読影者 東京
令和2年11月21日

4) 工藤 泰

「基準撮影法と応用の撮影—追加撮影のポイント—」

日立製作所ヘルスケア WEBINAR FRIDAYS 講演 東京
令和3年2月26日

5) 工藤 泰

「胃 X 線画像の読影、勉強のしかた—追加撮影の精度向上を目指して—」

札幌ニューテクノロジー研究会 講演 北海道
令和3年3月10日

4 共同研究

<総説・その他>

- 1) 三浦昭順 門馬久美子 春木茂男 他
「腐食性食道炎に発生した胸部食道癌」
胃と腸 第55巻第9号 1126-1130 医学書院
令和2年8月

- 2) Hirasawa T Ikenoyama Y Ishioka M Nakashima H et al.
「Current status and future perspective of artificial intelligence
applications in endoscopic diagnosis and management of gastric cancer」
Digestive Endoscopy Vol.33No.2 263-272 2021
令和3年1月

B 研修事業

I 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、昨年度から延期していたが、初めて Zoom ウェビナーを利用したオンライン形式で開催した。専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるということで多くの参加があり、有意義な会となった。

『令和 2 年度第 1 回』

開 催 日：令和 3 年 1 月 22 日（金）

場 所：オンライン（Zoom を利用）

講 演 者：虎の門病院 消化器内科（胃腸）部長 布袋屋 修先生

演 題：「十二指腸腫瘍の内視鏡診断と治療」

C クリニック運営事業

1 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 13,075 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 4,626 人であった。

2 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：6,385 人

3 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

4 その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

1 令和2年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検診	法定検診	婦人科 検診	計
4月	45	26	47	1	119
5月	12	3	20	0	35
6月	521	353	163	0	1,037
7月	616	501	286	0	1,403
8月	578	455	297	0	1,330
9月	615	441	383	104	1,543
10月	704	500	319	93	1,616
11月	553	479	271	105	1,408
12月	474	569	436	8	1,487
1月	389	400	347	9	1,145
2月	380	322	272	13	987
3月	341	270	345	9	965
計	5,228	4,319	3,186	342	13,075

* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。

2 令和2年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃 検 診	計
4月	0	8	8
5月	0	0	0
6月	403	219	622
7月	560	385	945
8月	380	262	642
9月	482	350	832
10月	0	380	380
11月	0	255	255
12月	0	264	264
1月	0	311	311
2月	0	183	183
3月	0	184	184
計	1,825	2,801	4,626

3 令和2年度 外来受診者数

(単位：人)

	令和2年度	令和1年度	差引
4月	253	703	△450
5月	133	624	△491
6月	357	721	△364
7月	457	775	△318
8月	515	727	△212
9月	628	655	△27
10月	730	724	6
11月	590	669	△79
12月	650	739	△89
1月	571	635	△64
2月	707	656	51
3月	794	651	143
計	6,385	8,279	△1,894

4 令和2年度 上部消化管 X線検査

① 目的別検査件数

(単位：件)

項目		計	性別		受診歴	
			男性	女性	初回	逐年
検診	任意型	4,364	3,411	953	799	3,565
			(78.2%)	(21.8%)	(18.3%)	(81.7%)
	対策型	2,333	1,849	484	231	2,102
			(79.3%)	(20.7%)	(9.9%)	(90.1%)
一般診療		3	3	0	3	0
			(100%)	(0%)	(100%)	(0%)
計		6,700	5,263	1,437	1,033	5,667

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	84	940	1,469	1,311	474	83	3	4,364
対策型検診	13	319	1,040	746	208	6	1	2,333
計	97	1,259	2,509	2,057	682	89	4	6,697

③ 要精検率と精検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体				初回検診群				逐年検診群						
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数		要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数		要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数				
任意型	160	3.7%	18	11.3%	4,364	27	3.4%	3	11.1%	799	133	3.7%	15	11.3%	3,565
対策型	78	3.3%	46	59.0%	2,333	11	4.8%	5	45.5%	231	67	3.2%	41	61.2%	2,102
計	238	3.6%	64	26.9%	6,697	38	3.7%	8	21.1%	1,030	200	3.5%	56	28.0%	5,667

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数/受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数/要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	97	273	986	1,277	1,232	1,187	870	498	184	77	12	4	6,697
要精検者数	1	6	19	29	33	46	31	39	21	11	1	1	238	
精検受診者数	0	2	6	13	9	12	10	6	4	2	0	0	64	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	1	2	3	1	1	0	0	1	0	0	9
	胃潰瘍（瘢痕を含む）	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	5
	その他の良性疾患	0	0	4	5	4	7	4	5	3	0	0	0	32
	異常なし	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	4
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	2	1	3	1	3	1	0	1	0	0	0	12
	食道癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	42	65	179	152	118	104	70	41	18	8	1	1	799
要精検者数	1	3	1	3	5	4	4	4	0	2	0	0	27	
精検受診者数	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	胃潰瘍（瘢痕を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の良性疾患	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	42	150	546	554	645	650	487	283	132	63	11	2	3,565
要精検者数	0	3	9	10	18	22	15	26	19	10	0	1	133	
精検受診者数	0	2	1	1	0	2	2	2	3	2	0	0	15	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	胃潰瘍（瘢痕を含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他の良性疾患	0	0	0	0	0	2	1	1	3	1	0	0	8
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	食道癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	8	14	37	53	36	37	33	9	3	1	0	0	231
要精検者数	0	0	3	0	0	3	2	3	0	0	0	0	11	
精検受診者数	0	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	5	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃潰瘍（瘢痕を含む）	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	その他の良性疾患	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計	
	受診者数	5	44	224	518	433	396	280	165	31	5	0	1	2,102
要精検者数	0	0	6	16	10	17	10	6	2	0	0	0	67	
精検受診者数	0	0	3	11	8	9	6	3	1	0	0	0	41	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	胃ポリープ	0	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0	6	
	胃潰瘍（瘢痕を含む）	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4	
	その他の良性疾患	0	0	2	5	4	5	3	3	0	0	0	22	
	異常なし	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	2	1	3	0	0	1	0	0	0	7
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 令和2年度 X線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検診形態		検査件数
胸部	外来	3	15,632
	契約検診	12,262	
	集団検診（施設）	2,380	
	集団検診（車）	987	
上部消化管	外来	3	6,700
	契約検診	4,364	
	集団検診（施設）	1,427	
	集団検診（車）	906	
大腸CT			45
胸部CT			803
腹部CT			301
頭部CT			0
マンモグラフィ			1,076
骨密度			382
内臓脂肪測定			269
計			25,208

6 令和2年度 内視鏡検査件数

(単位：件)

検査件数	
上部消化管	6,925
経鼻内視鏡の内訳	<1,575>
下部消化管	1,129
計	8,054
生検件数	
上部消化管	379
下部消化管	166
計	545
下部消化管治療件数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	175

(単位：件)

鎮静剤使用による検査件数	
上部消化管	3,097
下部消化管	936
計	4,033

生検件数：内視鏡下で組織片を得るための検査件数であり、病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

7 令和2年度 病理検査件数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		計
		上部	下部	上部	下部	
組織検査	生検	—	—	—	—	565
	内視鏡切除	—	—	—	—	192
	外科切除	—	—	—	—	0
計		—		—		757

細胞検査	2,256
------	-------

8 令和2年度 がん患者数

(単位：人)

	食道がん		胃がん		大腸がん	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
～29歳						
30～34歳						
35～39歳						
40～44歳						1
45～49歳	1				1	
50～54歳			3		1	
55～59歳	1		2	1	3	
60～64歳			6		2	1
65～69歳			1		2	
70～74歳		1	4			
75～79歳		1	1			1
80歳～			2			
小計	2	2	19	1	9	3
計	4		20		12	

9 令和2年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	4
Ut	
Mt	
Lt	
Ae	
EG	
計	4

10 令和2年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	計
U		1		2	3
M	9	1	2	3	15
L	1	2		2	5
計	10	4	2	7	23

11 令和2年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0						1	2	3	計
	I	Ip	Isp	Is	IIa	IIc				
C				1	1					2
A					1					1
T										0
D										0
S		3	1							4
RS			2							2
R			1					1		2
計	0	3	4	1	2	0	0	1	0	11

12 令和2年度 腹部超音波検査件数

(単位：件)

		契約検診		外 来		計
		6,014		274		6,288
		男 性	女 性	男 性	女 性	
		4,502	1,512	188	86	
有 所 見 内 訳	脂肪肝	2,080	267	88	18	2,453
	肝嚢胞	1,547	452	79	34	2,112
	肝血管腫（疑い）	579	247	24	17	867
	肝腫瘍（疑い）	26	5	6	3	40
	慢性肝疾患	74	6	18	5	103
	肝硬変	6	0	6	1	13
	門脈瘤	4	1	2	0	7
	肝内石灰化	198	46	16	5	265
	胆嚢ポリープ	1,615	421	64	20	2,120
	胆石	221	59	22	9	311
	胆嚢腺筋腫症	367	100	32	12	511
	慢性胆嚢炎	0	0	0	0	0
	胆嚢壁内結石	132	23	5	1	161
	膵嚢胞	94	52	24	16	186
	膵石（疑い）	12	8	2	1	23
	のう胞性膵腫瘍（疑い）	93	12	7	2	114
	充実性膵腫瘍（疑い）	14	2	1	0	17
	腎嚢胞	1,663	294	93	28	2,078
	腎結石・尿管結石	188	32	12	1	233
	水腎症	40	19	7	5	71
	腎内石灰化	1,938	477	86	40	2,541
	腎血管筋脂肪腫	66	37	4	4	111
	腎腫瘍（疑い）	3	1	0	0	4
	馬蹄腎	7	3	0	0	10
	脾嚢胞	9	2	1	1	13
	脾腫瘍（疑い）	8	1	0	0	9
	脾石灰化	9	4	1	0	14
脾血管腫	4	2	1	0	7	
副腎腫瘍	11	3	2	1	17	

13 令和2年度 乳腺超音波検査件数及び有所見者数

乳腺超音波件数	1,771 件
---------	---------

有所見 内訳

(単位：件)

内 訳	契約検診	外 来	計
乳腺症	52	1	53
乳腺腫瘍（疑い）	30	0	30
乳腺嚢胞	1,392	13	1,405
嚢胞内腫瘍（疑い）	0	0	0
非浸潤癌（疑い）	1	0	1
浸潤癌（疑い）	1	0	1
線維腺腫（疑い）	636	11	647
乳房脂肪腫	2	0	2
乳管拡張症	91	2	93

14 令和2年度 臨床検査件数

(単位：件)

種 別	件 数
生化学	207,092
検 尿	72,855
検 便	19,580
血 液	69,787
血清学	31,324
ウイルス (HIV)	0
細 菌	30
合 計	400,688

15 令和2年度 臨床検査別件数

(単位：件)

種 別		件 数
生化学	蛋 白	17,093
	糖	22,837
	脂 質	56,731
	酵 素	63,740
	その他	46,691
	計	207,092
検 尿		72,855
検 便	検 便	17,962
	検 便 (虫卵)	1,618
	計	19,580
血 液	血液形態学	680
	血液凝固	534
	血球計数	68,573
	計	69,787
血清学		31,324
ウイルス (HIV)		0
細 菌		30
合 計		400,668

D 啓発事業

研究事業の成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

1 保健指導者セミナー

新型コロナウイルス感染症対策のため開催延期

2 ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。令和 2 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

- 第 54 号 「頭部 CT と MRI の違いについて」
- 第 55 号 「聴力検査について」
- 第 56 号 「アルコールと病気について」
- 第 57 号 「乳がん検診について」
- 第 58 号 「大腸内視鏡検査の前処置について」
- 第 59 号 「ピロリ菌除菌後の胃がん検診について」

E 法人運営

1 評議員会・理事会の開催

第29回 理事会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、決議の省略による方式に変更。

決議があったものとみなされた事項

- ① 令和1年度事業報告書・計算書類等の件
 - ② 資金の借入の件
 - ③ 第9回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
- 報告事項 令和1年度資金運用実績について

第9回 評議員会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、決議の省略による方式に変更。

決議があったものとみなされた事項

- ① 令和1年度事業報告書・計算書類等の件
- ② 評議員の選任の件
- ③ 理事及び監事の件

第30回 理事会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、決議の省略による方式に変更。

決議があったものとみなされた事項

- ① 理事長の選定の件

第31回 理事会

日 時 令和2年11月11日(水) 17時30分から

場 所 東京証券会館9階 第9会議室

出席数 理事10名、監事2名

報告事項 業務執行状況について

第32回 理事会

日 時 令和3年3月18日(木) 18時から

場 所 東京証券会館9階第9会議室及びWeb会議 (Zoomによる)

出席数 理事10名、監事3名

決議事項 ① 令和3年度事業計画書・収支予算書等の件

② 令和3年度資金運用の方針及び運用計画の件

報告事項 業務執行状況について

2 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ 超音波診断装置

3 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

4 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に行えるようにした。また、職員に対して法令及び規程等を周知し、その徹底を図った。

令和 2 年度 計算書類等

A 貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	136,034,158	88,463,989	47,570,169
未収金	70,282,491	68,305,287	1,977,204
薬品	816,056	611,347	204,709
診療材料	44,720	45,570	△ 850
貯蔵品	659,948	474,809	185,139
前払費用	11,561,735	10,971,575	590,160
流動資産合計	219,399,108	168,872,577	50,526,531
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	7,918,455	7,187,623	730,832
投資有価証券	192,081,545	192,812,377	△ 730,832
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	57,110,177	47,865,107	9,245,070
減価償却引当資産	40,000,000	40,000,000	0
特定資産合計	97,110,177	87,865,107	9,245,070
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	1,253,000	1,253,000	0
造作設備	9,427,235	10,359,361	△ 932,126
什器備品	13,512,709	19,383,007	△ 5,870,298
研究機器	121,219,505	112,406,778	8,812,727
ソフトウェア	2,658,777	3,936,785	△ 1,278,008
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
一括償却資産	1,304,089	2,224,535	△ 920,446
長期前払費用	1,502,268	1,369,635	132,633
その他固定資産合計	171,059,405	171,114,923	△ 55,518
固定資産合計	468,169,582	458,980,030	9,189,552
資産合計	687,568,690	627,852,607	59,716,083
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	10,954,285	11,280,745	△ 326,460
未払費用	26,799,744	23,329,670	3,470,074
未払金	17,466,100	22,227,923	△ 4,761,823
リース債務	27,046,611	28,386,664	△ 1,340,053
預り金	2,049,982	1,954,195	95,787
賞与引当金	14,593,945	11,500,645	3,093,300
未払消費税	5,522,400	13,293,200	△ 7,770,800
短期借入金	100,000,000	0	100,000,000
流動負債合計	204,433,067	111,973,042	92,460,025
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	14,930,300	12,191,800	2,738,500
退職給付引当金	42,179,877	35,673,307	6,506,570
長期未払金	7,027,462	5,511,211	1,516,251
リース債務	79,978,520	69,322,331	10,656,189
固定負債合計	144,116,159	122,698,649	21,417,510
負債合計	348,549,226	234,671,691	113,877,535
III 正味財産の部			
一般正味財産	339,019,464	393,180,916	△ 54,161,452
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	
正味財産合計	339,019,464	393,180,916	△ 54,161,452
負債及び正味財産合計	687,568,690	627,852,607	59,716,083

B 正味財産増減計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,832,468	1,832,468	0
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	92,600	92,600	0
特定資産受取配当金	263,325	260,750	2,575
③ 受取会費			
賛助会員受取会費	2,435,000	3,055,000	△ 620,000
④ 事業収益			
診断診療事業収益	564,780,324	601,964,604	△ 37,184,280
⑤ 受取寄附金			
受取寄附金	13,245,000	17,345,000	△ 4,100,000
⑥ 雑収益			
受取利息	1,616	1,867	△ 251
雑収益	28,324,950	4,092,470	24,232,480
経常収益計	610,975,283	628,644,759	△ 17,669,476
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	22,441,333	15,120,000	7,321,333
給料手当等	271,276,435	259,431,017	11,845,418
役員退職慰労引当金繰入額	1,890,800	1,260,000	630,800
退職給付費用	5,683,830	5,197,760	486,070
福利厚生費	34,329,975	28,548,703	5,781,272
旅費交通費	204,864	555,258	△ 350,394
通信運搬費	5,645,484	5,156,462	489,022
医療材料費	30,252,189	28,853,328	1,398,861
消耗品費	17,422,886	15,856,735	1,566,151
修繕費	19,201,727	17,827,622	1,374,105
図書費	291,963	662,900	△ 370,937
印刷製本費	3,211,440	3,478,878	△ 267,438
光熱水料費	2,573,913	2,788,254	△ 214,341
貸借料	78,994,201	79,071,838	△ 77,637
委託費	71,965,608	82,210,676	△ 10,245,068
リース費	331,639	657,919	△ 326,280
会議費	60,748	20,250	40,498
保険料	523,161	287,203	235,958
支払負担金	460,800	460,800	0
支払利息	1,748,990	790,449	958,541
支払手数料	1,886,311	2,198,075	△ 311,764
交際費	29,725	22,400	7,325
広告費	3,460,597	965,392	2,495,205
減価償却額	44,499,357	40,656,289	3,843,068
租税公課	4,658,246	4,826,563	△ 168,317
雑費	433,146	942,798	△ 509,652

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役 員 報 酬	10,110,333	8,280,000	1,830,333
給 料 手 当 等	21,525,911	20,090,277	1,435,634
役員退職慰労引当金繰入額	847,700	690,000	157,700
退 職 給 付 費 用	822,740	824,860	△ 2,120
福 利 厚 生 費	4,513,294	4,072,144	441,150
旅 費 交 通 費	4,141	9,396	△ 5,255
通 信 運 搬 費	50,811	45,659	5,152
消 耗 品 費	37,600	38,000	△ 400
修 繕 費	227,500	225,000	2,500
光 熱 水 料 費	59,596	65,000	△ 5,404
賃 借 料	1,200,000	1,200,000	0
委 託 費	120,000	120,000	0
会 議 費	190,010	187,123	2,887
支 払 負 担 金	102,000	102,000	0
支 払 寄 附 金	50,000	55,000	△ 5,000
支 払 手 数 料	400	400	0
交 際 費	0	50,000	△ 50,000
減 価 償 却 費	589,430	643,635	△ 54,205
顧 問 料	1,690,000	1,680,000	10,000
租 税 公 課	6,450	1,400	5,050
雑 費	0	0	0
経常費用計	665,627,284	636,227,463	29,399,821
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 54,652,001	△ 7,582,704	△ 47,069,297
特定資産評価損益等	491,484	△ 305,008	796,492
評価損益等計	491,484	△ 305,008	796,492
当期経常増減額	△ 54,160,517	△ 7,887,712	△ 46,272,805
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却額			
造 作 設 備 除 却 額	927	0	927
什 器 備 品 除 却 額	3	0	3
研 究 機 器 除 却 額	5	61,321	△ 61,316
経常外費用計	935	61,321	△ 60,386
当期経常外増減額	△ 935	△ 61,321	60,386
当期一般正味財産増減額	△ 54,161,452	△ 7,949,033	△ 46,212,419
一般正味財産期首残高	393,180,916	401,129,949	△ 7,949,033
一般正味財産期末残高	339,019,464	393,180,916	△ 54,161,452
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	339,019,464	393,180,916	△ 54,161,452

C 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有有価証券	…	原価法又は償却原価法(定額法)による。
その他有価証券		
時価のあるもの	…	決算日の市場価格等に基づく時価法による。 (売却原価は移動平均法により算定する。)
時価のないもの	…	移動平均法による原価法による。

(2) 棚卸資産の評価方法及び評価基準

薬品、診療材料及び貯蔵品	…	最終仕入原価法による低価基準
--------------	---	----------------

(3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

(4) 引当金の計上基準

①賞与引当金	…	財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。
②役員退職慰労引当金及び 退職給付引当金	…	財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

(6) 消費税等の会計処理 税抜方式

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	7,187,623	730,832	0	7,918,455
投資有価証券	192,812,377	0	730,832	192,081,545
小 計	200,000,000	730,832	730,832	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	47,865,107	19,245,070	10,000,000	57,110,177
減価償却引当資産	40,000,000	491,484	491,484	40,000,000
小 計	87,865,107	19,736,554	10,491,484	97,110,177
合 計	287,865,107	20,467,386	11,222,316	297,110,177

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	7,918,455	0	7,918,455	—
投資有価証券	192,081,545	0	192,081,545	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	
特定資産				
退職給付引当資産	57,110,177	—	—	57,110,177
減価償却引当資産	40,000,000	0	40,000,000	—
小 計	97,110,177	0	40,000,000	57,110,177
合 計	297,110,177	0	240,000,000	57,110,177

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	89,692,587	80,265,352	9,427,235
什 器 備 品	87,372,398	73,859,689	13,512,709
研 究 機 器	414,378,248	293,158,743	121,219,505
ソ フ ト ウ ェ ア	8,453,923	5,795,146	2,658,777
合 計	599,897,156	453,078,930	146,818,226

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	30,129,939	30,243,000	113,061
サ・コールドマン・サックスグループ社債	20,000,000	19,620,000	△ 380,000
ソフトバンクグループ社債	30,555,951	30,504,000	△ 51,951
三菱UFJフィナンシャルグループ社債	20,000,000	20,017,320	17,320
B P C E S . A 社債	41,005,887	40,104,000	△ 901,887
MS&ADインシュアランスグループ社債	20,295,829	20,166,000	△ 129,829
ド イ ツ 銀 行 社 債	30,093,939	29,136,000	△ 957,939
株式会社商船三井社債	8,000,000	7,942,552	△ 57,448
合 計	200,081,545	197,732,872	△ 2,348,673

6 引当金の増減額及びその残高

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	11,500,645	44,320,109	41,226,809	0	14,593,945
役員退職慰労引当金	12,191,800	2,738,500	0	0	14,930,300
退職給付引当金	35,673,307	6,506,570	0	0	42,179,877
合 計	59,365,752	53,565,179	41,226,809	0	71,704,122

D 財 産 目 録

令和3年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額		
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	384,155	
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	〃	687,857	
		三井住友銀行東京中央支店	〃	50,949,053	
		きらぼし銀行茅場町支店	〃	699,636	
		みずほ銀行丸の内中央支店	〃	17,422,579	
		ゆうちょ銀行	〃	215,078	
		三菱東京UFJ銀行八重洲通支店	〃	683,421	
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	3,231,463	
		武蔵野銀行東京支店	〃	61,760,916	
			<現金預金計>	136,034,158	
	未収金	社会保険報酬支払基金	公益目的事業の収入である。	10,454,284	
		伊藤忠健康保険組合	〃	7,433,470	
		東京証券業健康保険組合	〃	6,551,104	
		伊藤忠健康連合保険組合	〃	6,351,750	
		日本橋医師会	〃	4,890,538	
		上記他128件	〃	34,601,345	
			<未収金計>	70,282,491	
	薬品	X線撮影用造影剤他		816,056	
	診療材料	X線画像用CD他		44,720	
貯蔵品	印刷物ほか		659,948		
前払費用	日経プラザアンドサービス	R3.4分賃借料	6,754,125		
	通勤手当	役職員の6か月分通勤費である。(R3.4～R3.9)	3,698,000		
	リース契約に関する利息	公益目的保有財産	734,035		
	北野ビル	R3.4分賃借料	246,125		
	〃	更新料	98,450		
	東京証券会館	理事会会場費	31,000		
		<前払費用計>	11,561,735		
流動資産合計			219,399,108		
(固定資産)	基本財産				
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	運用益を公益目的事業に使用している。	7,918,455	
	投資有価証券	BPCE S.A社債	〃	41,005,887	
		ソフトバンクグループ社債	〃	30,555,951	
		三菱UFJ信託銀行社債	〃	30,129,939	
		ドイツ銀行社債	〃	30,093,939	
		MS&ADインシュアランスグループ社債	〃	20,295,829	
		ザ・ゴールドマン・サックスグループ社債	〃	20,000,000	
		三菱UFJフィナンシャルグループ社債	〃	20,000,000	
			<基本財産計>	200,000,000	
	特定資産	退職給付引当資産	普通預金	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	51,811,177
			三井住友銀行東京中央支店	〃	5,299,000
		減価償却引当資産	普通預金	公益目的事業用資産の取得資金	22,000,000
			三井住友銀行東京中央支店	〃	382,931
			三井住友銀行東京中央支店	〃	9,574,559
			野村証券ファンドラップ	〃	42,510
			野村証券預け金	〃	8,000,000
			商船三井社債	〃	8,000,000
				<特定資産計>	97,110,177
	その他固定資産	敷金	株式会社日本経済新聞社	日経茅場町ビル敷金	18,383,640
	入居保証金	北野ビル	北野ビル入居保証金	1,253,000	
	造作設備	1Fレイアウト工事	公益目的保有財産	2,170,270	
		医局内装工事	〃	1,510,230	
		3F診察室改装工事	〃	1,018,000	
		その他造作設備	〃	3,859,018	
		〃	法人会計保有財産	869,717	

	什器備品	X線画像管理システム	公益目的保有財産	5,666,667
		複合機5台	〃	2,252,500
		システム生物顕微鏡	〃	669,167
		健診システム	〃	556,834
		医療系LANケーブル工事	〃	519,334
		空調工事	〃	424,066
		電子カルテ	〃	322,400
		本館医局LANケーブル配線工事	〃	249,167
		Console Advance一式	〃	241,542
		その他什器備品	〃	807,830
		労務システムサーバ	法人会計保有財産	1,803,200
		その他什器備品	〃	2
	研究機器	マルチスライスCT	公益目的保有財産	36,351,250
		超音波診断装置	〃	33,244,156
		電子内視鏡及び各種内視鏡機器	〃	12,608,640
		X線テレビ装置（胃部）3台	〃	10,198,500
		乳房X線撮影装置	〃	7,968,750
		CALNEO Smart C77	〃	5,752,267
		X線骨密度測定装置	〃	3,618,800
		密閉式自動包埋装置	〃	2,611,125
		心電計2台	〃	2,436,000
		内視鏡保管庫	〃	1,048,787
		リトラトーム	〃	971,500
		オート無散瞳眼底カメラ	〃	858,480
		パラフィン包埋ブロック作成装置	〃	851,400
		高周波焼灼電源装置	〃	385,667
		エニマCo2	〃	383,216
		内視鏡診察台 2台	〃	322,524
		婦人科診察台	〃	235,215
		エニマCo2ワゴン	〃	179,834
		自動身長計付体重計	〃	165,000
		炭酸ガス送気装置	〃	114,750
	その他	〃	913,642	
	〃	法人会計保有財産	2	
電話加入権	3668-6801他	公益目的保有財産	1,348,637	
	3668-6803他	法人会計保有財産	449,545	
ソフトウェア	MWM接続費用	公益目的保有財産	1,933,334	
	健診システム	〃	683,834	
	電子カルテ	〃	41,609	
一括償却資産	平成30年度分	〃	2	
	令和1年度分	〃	1,040,173	
	令和2年度分	〃	263,914	
長期前払費用	リース契約に関する利息	〃	1,502,268	
			<その他固定資産計>	171,059,405
固定資産合計				468,169,582
資産合計				687,568,690

(流動負債)	買掛金	メディセオ	公益目的事業の費用である。	5,130,420
		ポリパ ^ス ステ ^ィ カル ^イ エ ^ン ス販売	〃	3,309,026
		富士フィルムメディカル	〃	1,437,899
		東邦薬品	〃	733,893
		アルフレッサ	〃	127,955
		メディエントランス	〃	158,926
		サンメディックス	〃	56,166
			<買掛金計>	10,954,285
	未払費用	締後給料	R3.3月分	23,918,631
		社会保険料	〃	2,668,539
		郵便料金	〃	208,672
		旅費交通費	〃	3,902
		<未払費用計>	26,799,744	
	未払金	L S I メディエンス	公益目的事業の費用である。	6,792,736
		エーゼット	〃	1,378,146
サン・ウォッシング		〃	1,314,731	
バックステージ		〃	968,000	
キャノンメディカルシステムズ		〃	646,690	
リース残債務に関わる消費税等		〃	2,254,029	
上記他34件		〃	4,106,928	
アマノ		法人会計の費用である。	4,840	
	<未払金計>	17,466,100		
リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	20,865,760	
	什器備品	〃	5,794,451	
	〃	法人会計の費用である。	386,400	
	<リース債務計>	27,046,611		
預り金	源泉所得税	R3.3月分	1,265,082	
	市町村民税	〃	784,900	
	<預り金計>	2,049,982		
賞与引当金	職員	職員の賞与の引当金である。	14,593,945	
未払消費税	R2年度分		5,522,400	
短期借入金	武蔵野銀行東京支店		100,000,000	
流動負債合計			204,433,067	
(固定負債)	役員退職慰労引当金		役員退職慰労金の引当金である。	14,930,300
	退職給付引当金		職員の退職金の引当金である。	42,179,877
	長期未払金	リース残債務に関わる消費税等		7,027,462
	リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	74,681,120
		什器備品	〃	3,848,400
	〃	法人会計の費用である。	1,449,000	
	<リース債務計>	79,978,520		
固定負債合計			144,116,159	
負債合計			348,549,226	
正味財産			339,019,464	

令和3年6月17日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町2丁目6番12号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <https://www.soiken.or.jp/>

E-mail mail@soiken.or.jp